

兵庫縣羊齒おぼえ書 (一)

稲田 又 男

筆者は終戦後昭和21年2月に上海より引揚げてより以来、所謂暗黒時代とも云うべき戦後のどさくさに、食う事に追われて植物採集等とも考えるべき暇もなかつたというべきが本音でしょう。そんなこんなで、其の日其の日の食物を追いながら約3年間、やつと昭和24年の秋、本学会の採集会に出席したのがはじまりで、以来あちこちの採集会に参加し、昔の記憶を呼び起しながら採集をはじめて居ります。

以上の様な次第でまだ何も書く資料は持つて居りませんが、羊齒についての雑記帳とでも云うべきものを、順序もなく書いてみる事にしました。諸氏の御指導と御叱正を仰ぐこと切であります。

1 オウレンシダ *Cptidipteris Wirfordii* Nakai.

昭和25年6月4日兵庫県生物学会主催で養父郡関宮の蛇紋岩地帯の植物採集会で本種を採集しました。裏日本では氷の山でも筆者は得て居り但馬では調査の進むにつれて各処で発見されるのではないかと思われませんが、現在では2ヶ処であり、表日本では有馬で得て居り、又六甲百間滝附近に産すと兵庫生物第3号に川崎先生が報じて居られます。兵庫県としては現在以上の4ヶ処が産地として挙げられていますが、更に次々と産地が現われん事を望んで居ります。

2 オオフツシダ *Monachosorum flagellare* Hayata

本種は兵庫県にては三国岳及小金岳で、樋口繁一氏が採集して居られますが、両地は共に丹波で、播磨には産地が挙げられていませんが、筆者は昭和25年6月5日神崎郡寺前村で採集しています。おそらく寺前村が播磨での最初の産地ではないかと思われます。

3 シシラン *Vittaria flexuosa* Fee.

本種も前記樋口繁一氏によつて、三国岳に産する事が報ぜられて居り、又洲本猪鼻谷にて大阪植物同好会(戦前)が採集会の時に採集しています。兵庫県では以上の2ヶ処ですが、これも筆者は前記神崎郡寺前村で採集しました。

4 ヌリトラノオ *Asplenium normale* Don.

本種も兵庫県ではあまり産地の報告がありませんが、筆者は神崎郡寺前村及び雪彦山にて採集しました。又最近になつて川辺郡長尾村西命寺滝で児玉務氏(大阪府)が採集していられます。更に調査をすれば続々と産地が出てくるのではないかと思われます。なお前記寺前村及雪彦山のものは小型で10cm.位のものば

かりで、最も大きなものでも20cm.位にしか伸びません。

5 コウヤワラビ *Onoclea sensibilis* var. *interrupta* Max.

本種も神崎郡寺前村で、田のあぜに群生しているものを採集しましたが、その他では有馬郡藍村大川瀬のやはり田のあぜで採集しました。本種はヒメシダと同じ様な生育場所で山間の盆地の畦や、湿地で他の羊齒の様に陰地でないと生えないということはありませぬ。即ち次の様なことが云えると思います。

- a 森林の下草としては生えない。
- b 急傾斜地とか谷合には生えない。
- c 水の汚い処では生えない。
- d 平地よりも高い処の田の畦などに生える。

なおヒメシダの分布及びコウヤワラビとの関連性については、児玉務氏が関西自然科学研究会会誌第4号(昭和25年5月)に述べて居られます。

6 イワシダ *Diplaziops isjavanica* C. Chr.

昭和26年6月17日兵庫県生物学会主催で宍粟郡船越山で採集しました。建部愈潤氏の話によりますと、本種は檜の伐採により絶滅に類しているため、本種保存のため移植されたとの事で、現在は原生地と移植地の2ヶ処に生育して居ります。他に宍粟郡奥谷村赤西国有林で昭和26年8月14日に採集しました。又城崎郡三方村蘇夫岳分尾谷で荒木英一氏が採集して居られます。(京大標本室)

7 オオクツヤクシダ *Dryopteris dickinsii* C. Chr.

本種は昭和12年に神戸布引水源池附近で採集しましたが、其後兵庫県ではあまり産地が挙げられていません。本年宍粟郡船越山の採集会で採集したのみで、更に調査すれば他にも産地があるのではないかと思います。本種はイワヘゴとよく似ていますが、糞堆が葉の縁につくことと、葉の表面に葉脈がクマワラビの様に凹むので判別出来ます。

8 イヌチャセンシダ *Asplenium anceps* var. *proliferum* Nakai

本種は兵庫県では飾磨郡雪彦山及び宍粟郡船越山で採集しました。船越山にはチャセンシダが多い様ですが、イヌチャセンシダも混つています。本種はチャセンシダとよく似ていますが、葉の先端が垂れて地に着き、不定芽を生ずることがあります。又葉柄に3稜状の翼があることで区別することが出来ます。

9 ヒロハヤブソテツ *Cyrtomium macrophyllum*
Tagawa

兵庫県では宍粟郡船越山で採集したのみですが、更に調査をすれば新産地が出るのではないのでしょうか、いずれにしても兵庫県では稀のように思われます。

10 ダニイヌワラビ *Athyrium otophorum* Koidz.

筆者は兵庫県では前記宍粟郡船越山及び飾磨郡雪彦山で採集していますがまだ他に丹波、但馬には産するものと思われます。本種は葉の先が鋭尖頂で葉の表面小羽片中軸にとびが出て居ります。又此の属のものは冬枯れますが、本種は枯れないので他のものと区別することが出来ます。

11 シケチシダ *Cornopteris decurrenti-alata*
Nakai

本種は京都府では各地に普通に産する種類ですが、兵庫県では葉外小いように思われていました。しかしこれも調査不十分で更に調べれば次々と産地が出るのではないのでしょうか、筆者は氷の山、雪彦山等で採集して居ります。他に丹波では各地に産する様に思われます。

12 アオネカヅラ *Marginaria niponica* Nakai

兵庫県では雪彦山、船越山、有馬郡蓋村等で採集しましたが他に赤穂郡赤松村岩木や同郡矢野村森で室井先生が採集して居られます。本種は觀賞価値のある羊歯で盆栽家のよく好むものですがミズゴケと砂で鉢にすれば、よく活着し素人にでも栽培することが出来ます。

13 ミヤコイヌワラビ *Athyrium fragulum* Tagawa

本種は兵庫県では生物第4巻雪彦山植物採集記で岩

谷成彦氏がはじめて報じていられ、其後筆者は船越山と前記雪彦山で採集しました。なお調査するにつれて更に新産地が出るのではないかと思います。本種は葉の表面に毛が生えているのと羽片の中軸に赤味又は紫色がさして居りますので他のものと区別することが出来ます。

14 オサシダ *Spicantopsis amabilis* Nakai

本種は日本全土に広く分布していますが、案外少い種類で兵庫県では六甲山に産するのみで他に産地は発表されていません。何処か兵庫県で産地が出ることを期待しています。本種はシソ科とよく似ていますが、根茎がオサシダは横走して居りますので区別出来ます。

15 カラクサイヌワラビ *Athyrium elivicolum*
Tagawa

本種は六甲山及び宍粟郡奥谷村西国有林で採集しましたが、更に調査すれば産地が出るものと思われまゝ。本種はヤマイヌワラビやヒロハイヌワラビに似ていますが小羽片に短い柄があり基部も稍広くなります。

以上兵庫県に産する羊歯の数種について書いてみましたが、筆者は兵庫県の羊歯について更によく調査してみたいと思つて居ります。兵庫県の近くの府県で産地があつて兵庫県にないもの、又は当然兵庫県にもあるべきものでまだ採集されていないもの等がある様に思ひます。もし県下産の羊歯でどんな事でもお気付のものがありましたら筆者宛（加古川市別府町西脇）御知らせ又は標本御恵与下さる様お願い申し上げます。

(Oct. 25, 1951)

ワカサギ移入の歴史

樋口繁一

有馬郡道場村（昭和26年より神戸市に編入）に神戸市水道水源地がある。有馬郡内2ヶ村川辺郡内1ヶ村多紀郡内1ヶ村の水が武庫川に落ち合うところをせき止めて、人造湖を造り水をたゞえているのである。周囲16km.もあつて、舟もあり岩あり、花あり、四季の眺よく名勝地になつて居る。この池にワカサギの養殖が行われている。ワカサギは北海道や北朝鮮等の割合寒い地方の魚で早春に海から遡河して産卵し、稚魚は海で大きくなるのであるが、海に出ることなく湖や沼で大きくなることもある。この例が霞ヶ浦である。今から35年程前、有馬郡高平村に三石と云う人がいた。郷土は海に遠く新しい魚に乏しいので村の中央を流れる川に、この魚の繁殖を計画した。霞浦から稚魚を取り寄

せ放流して見たが一向に繁殖しない。翌年遡河する頃待つても魚は姿を見せない。再び霞ヶ浦から稚魚を取り寄せたが又失敗であつた。ところが数年たつて4km程川下のこの水道水源地に今まで見た事のない美しい魚の群を見つけたと聞いた。三石氏の喜びは十和田湖の和井内氏以上であつたでせう。三石氏が数年前に放流したワカサギであつた。

ワカサギは鮎に似た美しい魚で味も鮎以上で、10cm.程の細長い魚で体は淡灰色に銀白色の鱗があり、2・3月頃水源地にそゞぐ川に遡つてくる群を待網か引掛針で釣るのである。引掛針は1本の糸に何本かの釣のついた針で魚の胸を引掛けて採るのである。